

保育者養成における身体表現

～実技講習に対する保育者の感想からの検討～

田 辺 圭 子

1. 研究の動機

本学保育学科の学生達を対象に行った授業実践によって、音楽に合わせて踊ることや身体各部位の動きの組み合わせから運動を創り出すことを経験した学生達は、授業中に傍観することもなく、仲間と恥ずかしがらず楽しそうに踊るように（動くように）なった。⁽¹⁾しかし、「～になって動いてみる」や「自分の感じたままに動く」という学生が自分自身で感じたことや考えたことを身体の動きを通して表現する課題に対しては、ほぼ全員が立ち尽くし、動かなくなってしまった。これは、学生自身の内面と身体の結びつきを必要としていない授業内容であったためであり、研究者自身、自らの授業内容見直しの必要性を強く感じている。一方、保育現場からは保育における身体表現活動をどのように展開すればよいのかといった疑問の声が聞こえており、保育現場と保育者養成校が共に身体表現について考えることが必要なのではないかと考えた。

2. 身体表現について

①身体表現とは

幼稚園教育要領では、保育内容を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つ領域に分類しているが、身体表現は5領域の中の「表現」に含まれる。「表現」では、幼児の発達の側面から、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする⁽²⁾としており、身体表現は文字通り自分自身のからだと動きで表現するところに特性がある。また、身体表現は保育者の適切な援助によって、自分の身体や動きに気づいたり、動きを共有し動いている自分と相手の気持ちを共有したり、言葉では整理されない様々な感情や感覚を、自分のからだところのつながりの中に見出したり、他者との間にことばを越えた理解や共感を気づいていくなどの楽しさをより深く体験することが出来、そこからまた豊かな感性や表現力が養われていく⁽³⁾ことをねらう内容である。

身体表現は決して身体的な技術を高めるためのものでなく、表現教育として、心の内容を身体の運動によってあらわすものであり、表現されるべき心の内容が同時に教育されるもの⁽⁵⁾である。

本山は⁽⁶⁾心と身体をひっくるめた『まるごとの身体』⁽⁴⁾があらわす身体表現には本人の意識することなく「あらわれ」た表現と意図的に「あらわし」た表現があり、創造的な「あらわし」を繰り返すうちに意図することなく「まるごとのからだ」から「あらわれ」るようになり、「あらわれ」を豊かなものにするためには、非日常的な空間による創造的な「あらわし」活動を繰り返すことがとても重要であると述べている。

②身体表現活動における保育者の役割

イメージの世界に生きていると言っても過言ではない幼児が、「あらわし」と「あらわれ」の世界を行ったり来たりしながら、⁽⁷⁾ 1人又は友達と共に『まるごとの身体』があらわす身体表現を膨らませている姿をあらゆる保育場面でみることができる。しかし、一方には固定化した表現を好む子どもや身体による表現をあまり好まない子どもおり、幼児の身体の表現は心と密接に結びついているため個人差も大きい。幼稚園教育要領では「表現」内容の取り扱いとして、自然などの身近な環境と充分に関わる中で、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有することや幼児の自己表現を教師は受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めること、表現する意欲を十分に発揮させることができるような遊具や用具などを整えることなど教師の役割を述べている。⁽⁸⁾ 柴は⁽⁹⁾「動きの表現活動は教師が一方的に指導するのではなく、教師と幼児が共同で展開していく活動であり、教師がさめてはならず、率先して、その気持ちになりきり、教師の周りから雰囲気づくりをしていくことにより、幼児もひきこまれ、一つの世界を創造することができる。」と述べており、保育者が幼児からの自己表現を受容し、共有し率先してその気持ちになりきるためには、保育者自身が創造的な「あらわし」経験を積み重ね⁽¹⁰⁾、保育者自身の身体表現能力を高めることが必要になる。

3. 研究の目的

幼児が自分自身のからだと動きで豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするためには保育者自身の身体表現能力を高めることが必要になる。保育現場を離れた場所で身体表現活動を実際に体験することによって、自らの身体と向き合い心と身体の動きに気づく経験が必要であり、体験することによって身体表現活動に対して保育者が抱いている疑問が明らかになるのではないだろうかと考えた。幸い、本学附属幼児児童研究所主催の夏期講習会「からだで表現」の場に身体表現活動に疑問や悩みを持っている保育者に集ってもらい講習会を行う機会を得た。そこで、本研究は身体表現の実技講習に対する現役保育者の感想と意見から保育者の身体表現に対する疑問点と気づきを取り上げ検討するものである。

4. 研究の方法

①対象

北陸学院短期大学附属幼児児童教育研究所 夏期講習会「からだで表現」に参加した現役保育者11名であり、全員が20歳代であった。保育経験年数は表1のとおりである。

表1 保育経験年数

1年	6名
3年	1名
4年	3名
9年	1名

②実施時期

2003年10月に実施した。夏期講習会は8月に行われる予定であったが、台風の接近により、10月に変更して行った。

③実技内容

前述2.の内容を踏まえた身体表現活動のための実技内容を考えるにあたり、運動が力性(Weight)、空間(Space)、時間(Time)、の3つの要素が結合されて成立し、この結合の要素の割合によって運動に変化が生まれてくる⁽¹¹⁾ことに注目し、この3つの要素を中心に即興と模倣を加える内容とした。また、動きをできるだけ簡単なものに設定するために次の点に留意した。

- ・提示する課題は日常的に良く使われる動きとし、身体部位1～2箇所で行えるものとする。
- ・場面を創造する場合も動かす身体部位は1～2箇所限定し、ストーリーは用いない。
- ・動く以外の動作としてポーズを用いる。

実際に行った実技内容は資料1の通りである。

(資料1) 実技内容

1. 準備運動

ウォーミングアップ

ステップ

・スキップ ・ツーステップ ・ギャロップ

2. 一辺の長さが自分の身長で出来ている箱の中に入っている姿を想像し、六面全てに対して次の動作を行う。

①たたく ②拭く ③手で押す ④体全体で押す ⑤引っ張る ⑥ける

⑦手足を用いて箱全体を伸ばす

3. 基礎的な動作を与えられた課題に従って動く

①歩く

- ・自由に歩き回る ・太鼓に合わせて ・歩いている途中いつでも自由に拍手をして
- ・歩いている途中いつでも自由にケンケンをして ・歩いている途中いつでも自由に飛び上がって ・太鼓のリズムに合わせて

②走る

- ・自由に走り回る ・太鼓に合わせて ・歩いている途中いつでも自由に拍手をして
- ・歩いている途中いつでも自由にケンケンをして ・歩いている途中いつでも自由に飛び上がって ・太鼓のリズムに合わせて ・太鼓の音が鳴ったらすぐに両手を挙げて

4. 即興運動

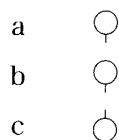
太鼓の音に合わせて次々と思いつくままに異なったポーズをする

5. 模倣運動

・ポーズを真似る

- ① 各自で異なるポーズを10種類考える。
- ② 図1のように並び、1拍目の太鼓の音に合わせてaが①で考えたポーズを1つする。
2拍目太鼓の音でcがaのポーズを真似る。
3拍目の太鼓の音でbがcを真似る。
全員が最初に行ったaの役割を経験する。

図1



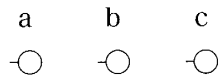
- ③ ②を太鼓の音 ♩ = 35 のスピードで3セット行う。
各セットのaの動きは異なる動きとする。
全員が最初に行ったaの役割を経験する。
 - ④ ③をaは1拍目でポーズをした後次の2拍目で1拍目とは異なるポーズをする。
c, はaの動きを1拍遅れで、bは2拍遅れで行う。
aは5種類の異なったポーズを1拍毎に続けて行う。
- ・繰り返しの動きを真似る
- ① 8呼間の前向きで行う繰り返しの動作を10種類各自で考える。
 - ② 図1のように並び、太鼓の音に合わせてaが①で考えた8呼間の繰り返し動作を1種類行う。この時cはaの動きを見ている。cはbの方を向いて待つ。
aは動くのを止め、cが太鼓の音に合わせてaの行った8呼間の繰り返し動作を行う。
bがcと同様に行う。
全員が最初に行ったaの役割を経験する。
 - ③ ②を太鼓の音 ♩ = 90 のスピードで3セット行う。
各セットのaの動きは異なる動きとする。
全員が最初に行ったaの役割を経験する。
 - ④ ③をaは8呼間の繰り返し動作をした後動きを止めず、次の異なる8呼間の繰り返し動作を行う。
c, はaの動きを8呼間遅れで、bは16呼間遅れで模倣することになる。

保育者養成における身体表現

aは5種類の異なる8呼間の繰り返し動作を続けて行う。

・空間を真似る

図2



① 2のように前を向いて並ぶ。

aは1人で8呼間の中で自由に軌跡を描きながら歩く。

bはaの軌跡をaが止まるまで目で追い、aが止まったらaの動いた軌跡を追って歩く。

cはbの軌跡をbが止まるまで目で追い、bが止まったらbの動いた軌跡を追って歩く。

6. 想像して動く

A 床が次の課題のような状態であることを想像して動く。

・つるつるすべる床 ・とげとげの床 ・ねばねばの床 ・水浸しの床

B ホール全体が常に次の課題の動きしか許されない場所であった場合を想像して動く。

・大また歩き ・ゆっくり ・ジャンプ ・ゴロゴロ転がる ・片足立ち
・泳ぐ ・匍匐前進 ・アヒル歩き

C 次のような大きな球を転がす時を想像して

・自分が転がしたことがある大玉 ・ゴムのように弾む大玉 ・風船のような大玉
・重たい大玉 ・熱い大玉 ・刺だらけの大玉

D 天上から床まである大きな新聞紙がホール中に何枚もたれ下がっている様子を想像して。

・新聞紙に身体が触れないように気をつけながら動く
・全ての新聞紙に拳骨で押したり、足で押して穴を空ける
・全ての新聞紙を破る

E ホール中に無数に線路が張り巡らされている状況を想像し、想像上の線路の上を電車に見立てた図3の大きさの積み木を手を持って走らせる。

4. 結果と考察

講習会に対する感想を自由記述で受講者に書いてもらった。その感想を全て書き出し、①身体表現に対する保育者自身の気づき ②保育現場で実践する場合の疑問点 ③今後取り上げて欲しい内容 にまとめ、考察を加えた。

①身体表現に対する保育者自身の気づき

- ・人間の身体のいろいろな個所を使ってこんなに自由に表現できることを知った。
- ・身体を使っていろいろな動きが出来ることを知った。
- ・表現は苦手であったが何も考えず、自然に身体が動いて表現していて自分でもびっくりした。
- ・想像以上にハードだったので驚いた。
- ・表現は無限であると思った。
- ・少し表現活動が好きになれそうに思った。
- ・電車を動かす活動では子どもになりきっていた。
- ・電車を動かす活動は子どもの気持ちがすごくわかるような気がして楽しかった。
- ・電車を動かす活動を通して、子どもはこのように周りが見えなくなるくらいになって遊んでいるのだと感じた。
- ・電車を動かす活動、床に転がるのが楽しかったが動きを考えるのが苦手だった
- ・立方体の箱の中に入って行った活動が楽しかった。

「人間の身体のいろいろな個所を使ってこんなに自由に表現できることを知った。」「身体を使っていろいろな動きが出来ることを知った。」という感想からは保育者自身の身体への気づきが伺われる。また、「想像以上にハードだったので驚いた。」「表現は無限であると思った。」からは身体表現に対して、講習内容が保育者の持っていたイメージと異なるものであったことを示しており、身体表現は運動であることや身体が創り出す表現の無限性の一端を実感することが可能であったのではないかと考えられる。「表現は苦手であったが何も考えず、自然に身体が動いて表現していて自分でもびっくりした。」は「あrawし」を繰り返すことにより、意図することなく「まるごとのからだ」から「あrawれ」てきたことを示しており、「少し表現活動が好きになれそうに思った。」など一回の実技で実感できる保育者がいたことから、「あrawし」経験の繰り返しが、保育者の身体表現能力を高めることに有効であると考えられる。電車を動かす活動に対する感想が多く、電車を動かす活動から「子どもになりきっていた。」や「子どもの気持ちのすごくわかるような気がして楽しかった。」「子どもはこのように周りが見えなくなるくらいになって遊んでいるのだと感じた。」等、子どもとの結びつきを強く述べている。これはこの活動が実際の子どもの活動に見られるかそれに近いことを示しており、子ども達が無意識に行っている活動や運動をそのまま保育者が真似るのではなく、子ども達の活動の中にある要素を取り出して保育者に提示し体験することによって子ども達の活動を保育者が実感を伴いながら追体験することを可能とするのではないかと考えられる。「電車を動かす活動、床に転がるのが楽しかったが動きを考えるのが苦手だった。」「立方体の箱の中に入って行った活動が楽しかった。」という意見からは、水

平方向だけではない様々な方向から生み出される動きの多様への興味を保育者が感じたと考えられ、「床に転がるのが楽しかった。」という記述部分からは、実技内容に立位による動きのバリエーションが多く、座位や横位など身体の状態を変化させた動きのバリエーションを取り入れる必要性を反省させられるものである。保育者が身体運動と空間に関する内容に満足度を得ていることは、保育者の身体表現能力を高める内容を考える上で役立つのではないかと考えられる。

②保育現場で実践する場合の疑問点

- ・具体的な保育への取り入れ方と進め方を教えて欲しい(2名)
- ・子ども達の気持ちののせ方
- ・子どもに教えていく時の指導の方法、ポイントを教えて欲しい
- ・未満児への導入方法と活動内容
- 表現したがる子どもにどのように表現することの楽しさを教えればよいか。(2名)
- ・身体を動かすことが苦手な子どもに対しての指導法
- ・活動に参加しない子どもに対して保育士はどのように援助すべきか。
- ・子ども達が楽しんで活動するためには保育者が楽しんで活動することが大切だと思うが、それによって保育者が楽しむことで全体が見えなくなってしまうか。
- ・子どもの前で保育者が動くことで子ども達の表現が保育者の模倣にならないか。
- ・活動に効果的な時間帯を教えて欲しい。
- ・音楽はどのような曲がよいのか

身体表現に楽器を取り入れても良いのか

2歳児担当だが、リトミックがいつものパターンになりやすい。いろいろなことをしたいが、できることも限られているので悩んでいる。

感想文中に「子どもに」「子どもへ」という言葉が使われていることから、保育者の頭の中には常に、学びを現場でどのように展開するかという問いが存在しており、「表現したがる子ども」「身体を動かすことが苦手な子ども」「活動に参加しない子ども」など、身体表現に対して消極的な子どもに対する保育者の戸惑いが伺われる。「保育者が楽しむことで全体が見えなくなってしまうか。」という問いかけからは、保育者が身体表現活動を楽しむためには、自らの心と身体をひっくるめた『まるごとの身体』をあらわすことになり、保育者のための活動になってしまう可能性の高いことを指摘していると考えられる。また、「子どもの前で保育者が動くことで子ども達の表現が保育者の模倣にならないか。」については、子ども達に保育者の模倣をさせるのではない子ども達の「表現」を求める保育者の姿勢が伺われる。

大場は⁽¹²⁾保育者には、旧教育要領における6領域の中の1つ「音楽リズム」が平成元年に改定された時に「絵画制作」とともに「表現」に変わったように映っており、「表現」についての説明が十分されていないことが保育者に戸惑いや不安を与えていることを指摘しており、“人間の表現とは何か”という所から出発して考える「表現原論」の必要性を説いているが、「音楽はどのような曲がよいのか。」「身体表現に楽器を取り入れても良いのか。」「2歳児担当だが、リトミック

田 辺 圭 子

がいつものパターンになりやすい。いろいろなことをしたいが、できることも限られているので悩んでいる。」という感想は、大場の指摘を表わしていると考えられる。身体表現を指導する者は、身体表現だけに目を奪われること無く、広い意味での「表現」に対する理解の必要性であると考えられる。

③今後取り上げて欲しい内容について

- ・保育の現場で実践できるような簡単なリズム遊びを知りたい
- ・保育に直接取り入れられるような踊りなど実用的なこともしたかった。
- ・音楽・リズムに合わせて身体を動かすことを教えて欲しい
- ・未満児が踊れる幼児ダンスを取り上げて欲しい
- ・未満児向きの身体表現活動

「保育の現場で実践できるような簡単なリズム遊びを知りたい」「保育に直接取り入れられるような踊りなど実用的なこともしたかった。」「音楽・リズムに合わせて身体を動かすことを教えて欲しい。」「未満児が踊れる幼児ダンスを取り上げて欲しい。」という感想から、保育者が現場での実践をイメージしやすい身体表現活動は音楽やリズムに合わせて動くことや踊ることであり、身体表現に関する十分な説明と理解を保育者に求めることが必要であると考えられる。また、「未満児向の身体表現活動。」については、研究者自身が今後取り組むべき課題として検討を加えねばならない。

5. まとめ

保育者の身体表現能力を高めることを目的とした身体表現活動を実技講習会で保育者に体験してもらい、保育者の感想文から、保育者の身体表現活動に対して抱いている疑問と気づきを取りあげた。実技講習によって「あらかわし」経験の繰り返しは、保育者の身体表現能力を高めることに効果がみられたが、保育者が保育現場での実践を意識した場合には、改訂前の幼稚園教育要領にあった「音楽リズム」の方がイメージしやすく、改訂後の「表現」に対する戸惑いが伺われ、身体表現を考える上で“表現とはなにか”という広義に視点を持つことの重要性を再認識することとなった。また、保育者が空間を意識した身体運動に興味を示したことから、保育者の身体表現能力を高める内容を考える上で役に立つのではないかと考えられた。

今回の結果を基に、今後養成校における身体表現授業内容を考えるための基礎的資料として用い、検討をしていきたい。

引用・参考文献

- (1) 田辺圭子 体育授業におけるエアロビックダンスについて 北陸学院短期大学紀要 第32号 pp.29～36 2000年
- (2) 文部省：幼稚園教育要領 建帛社 平成10年
- (3) 吉川京子 子ども・からだ・表現—豊かな保育内容のための理論と演習— 西洋子、本山益子、

保育者養成における身体表現

鈴木裕子、吉川京子共著 市村出版 p125 2003年

- (4) 柴真理子 身体表現 東京書籍 1993
- (5) 邦正美 教育舞踊言論 万有出版 pp.23～26 1960年
- (6) 本山益子 子ども・からだ・表現—豊かな保育内容のための理論と演習— 西洋子、本山益子、鈴木裕子、吉川京子共著 市村出版 p17 2003年
- (7) 前掲書5) pp.13～21
- (8) 前掲書2)
- (9) 柴紘子 柴真理子 動きの表現 —想像から想像へ— 星の環会 pp.34～35 1981年
- (10) 前掲書5) p20
- (11) 渡辺江津 改訂舞踊創作の理論と実際 明治図書 p32 1974年
- (12) 大場牧夫 表現原論 萌文書林 p142～157 1998年